

浮間コース

距離4.8km

浮間エリアは、渡船場跡や、かつて荒川の水流だった浮間公園など、荒川と深い結びつきがあります。庚申塔や地蔵堂なども多く、庶民の暮らしに根付いた信仰の面影が感じられます。

浮間ヶ原桜草園場



1 浮間の渡船場跡

桜草の名所である浮間村と対岸の小豆沢村(板橋区)を結んでいた渡船がありました。渡船は多くの人で賑わっていましたが、昭和3年に浮間橋ができ、姿を消しました。

往 浮間3-6地先

電 03-3916-1133

(北区飛鳥山博物館)



2 観音寺

明治の大水害で、本堂が床上浸水したため、樽を二つ並べた上に本尊を置き守ったという話が残っています。戦争によって金属供出がありましたが、鐘はつぶされことなく約40年後、浮間に帰ってきました。

往 北区浮間4-9-2

電 03-3960-4605

時 8:00~16:00(見学は一部可、境内散策は自由。ただし多人数の場合は要予約)



3 青面金剛庚申塔

寛政11年(1799)に作られた庚申塔です。頭上に蛇がとぐるを巻き、髪が左右に分かれているという様式は、浮間地区の庚申塔によく見られます。

往 浮間3-11-25



4 子育て地蔵尊

観音寺、北向地蔵、子育て地蔵と浮間にある三つの地蔵のひとつで、大小二つの地蔵がまつられています。古来子育てのご利益があるとして地域の人々に信仰されてきました。

往 浮間

3-34-26



5 傘屋庚申堂

傘屋という屋号の家の前にあったので「傘屋庚申」と呼ばれています。江戸時代、庚申の晩は寝ずに過ごす、道教に由来した「庚申講」が盛んでした。

往 浮間2-24-28



6 北向地蔵堂

堂の中央にある地蔵菩薩は「疣取地蔵」「身代地蔵」とも呼ばれています。かつては病気や悪霊が村に入れないようにするため浮間村の北の入口に外向きに建てられていました。

往 浮間2-4地先

電 03-3916-1133

(北区飛鳥山博物館)



7 氷川神社

境内の枝垂れ梅が有名です。浮間ヶ原桜草園場の開園時には境内で桜草の即売も行われています。社殿は浮間周辺の洪水のため、水塚とよばれる盛り土の上にあるのも特徴です。

往 浮間2-19-6

電 03-3966-1859



8 浮間ヶ原桜草園場

浮間は桜草の群生地として知られ、季節になると見物人が絶えず、橋がない頃には臨時の渡船場が設けられたほどです。近年、浮間ヶ原桜草保存会が桜草の保護・育成につとめています。

往 浮間2-30

電 03-5390-1234

(北区産業振興課産業振興係)



9 都立浮間公園

面積の約40%が浮間ヶ池で、かつての荒川の水流です。釣りもでき、小さなお子様連れでも気軽に楽しむことができます。湖畔には公園のシンボルとして設置された風車があります。

往 浮間2、板橋区舟渡2

電 03-3969-9168

(浮間公園サービスセンター)

